令和元年9月　第130号

道北支部ニュース

発行人　前田　健太郎
編集人　近藤　伸英

Index

✓Academic PT
✓道北支部活動報告
✓新人あいさつ
✓道北支部掲示板

Academic PT

旭川三愛病院
宇佐美　信一

この度は支部ニュースへの寄稿依頼をいただき、光栄に思います。
恥ずかしながら、40歳になった2018年から臨床研究への取り組みを始めましたので、「臨床研究を始めたきっかけと今考えること」というテーマで書かせていただきます。

【臨床研究を始めたきっかけ】
きっかけは、2017年の夏に当院所属の医師から「今年、学会発表してみてはどうだろうか？」という働きかけをいただいたことでした。
一度は断ったのですが、熱心に働きかけをしていただき、次の年に日本リハビリテーション医学会秋季学術大会で発表させていただくことになりました。ですから、業務対応の一環という意識が強かったというのが正直な所です。
テーマこそ自分で決めたものの、統計処理などしたことが無く、パワーポイントもまともに作ったことが無い有様で、医師にはメールで深夜まで指導していただき、当院リハビリスタッフにも沢山助けていただいて、形だけは整えることが出来ました。

初めての学会発表は、使用するデータも統計処理も殆ど医師にお任せであったため、自分の発表でありながら発表当日まで内容の理解に苦しむという奇妙な感覚がありました。
リハビリテーション界の発展に貢献できる内容とは到底思えませんでしたが、「自分で調べて検証する」という活動に興味を持つことが出来ました。

今年は2度ほど発表させていただく機会を得ましたが、まだまだアカデミックのアの字もない状態です。

【今考えること】
少ないながらも文献調査を進めるうちに、理学療法ガイドラインやEBPTの重要性について考えるようになりました。
沢山の理学療法士の方が先行研究を行い、様々な検証結果が発表されていますが、未だ明らかになっていない分野も多いということも分かりました。

小規模研究の検証結果から何かしら結論を言い切ることは難しいですが、私の場合、先行文献の研究モデルや検証結果を有難く参考にさせていただいて、現在自分が仕事しているフィールドで小規模でシンプルな検証を積み重ねた方が、データとしても日常業務においても、有益ではないかと考えています。

現状、知識と経験不足の他、日常的な評価記録の不足、計測精度の低さなど解決すべき問題は山積していますが、クリニカルクエスチョンから着想したテーマで検証を行い、いつの日か、理学療法業界に貢献できるような検証結果を出すことを目標にしています。
拙い文章ではありますが、何かしらお役に立てば幸いです。

道北支部活動報告

『理学療法の日イベントに参加して』

道北勤医協一条通病院
リハビリテーション科　銭谷　優希

令和元年7月14日、理学療法の日に開催された道北支部社会部の活動に参加させていただきました。内容は旭川を中心に北海道で活動する999AC(主にマラソンやクロスカントリーなど各種大会に参加している)に所属している方々を対象にコンディショニングや身体ケアの指導を行いました。

ウォーミングアップとして、まず円陣を組み、集団での体操を行なった後、1.5kmのランニングを行いました。理学療法士も参加者と一緒に体操を行いながら体のかたい人・痛みのある人をあらかじめ把握し、体調や既往歴の確認などの情報収集も行いました。

一緒にウォーミングアップに参加するなど、関わりやすい、話しやすい雰囲気を作る事は重要だと思いました。情報を確認する事や予防の指導を行っていく上で、相手から言いたい事を話せる状況が問題点を把握するために重要だと感じました。

ウォーミングアップが終了した後は各自自主練習の時間となりました。この時も身体ケアをするために走るときのフォームを観察し、動きの中から特徴を把握することで身体的な課題を推測しました。

その後、各自休憩をとっている時に声をかけ、動きを見せてもらい、課題に対してアプローチをしていきました。限られた環境の中で納得していただけるケアを行わなければならず、自分の技術や知識不足を痛感しました。普段は病院で患者様を相手にリハビリを実施していますが、スポーツ支援の現場で自分に出来ることは何かという事を深く考える良い機会になりました。また医師の指示の下で行う活動ではないため、通常のリハビリと違いどこまで何をやったら良いのか、どのように関われば良いのか、どうすれば喜んでもらえるのかという事を体験出来たことは今後の自己の成長の糧になるのではないかと思いました。また会話や自主練習の中などの少ない時間から対象者の問題点を素早く見つけ、アプローチしていくことがスポーツ現場では必須だと感じました。

このような取り組みを通して「理学療法士とはどのようなことをしているのか」を地域の方やアスリートの方に知っていただけるように今後も努力し、自己の技術や知識をつけていく必要があると感じました。

新人あいさつ

山下整形外科クリニック
藤田　向陽

いつもお世話になっております。今年度より理学療法士として山下整形外科クリニックで働かせていただいております、北海道科学大学出身の藤田向陽と申します。今回、新人を代表いたしまして、挨拶させて頂きたいと思います。

当院は、外来でリハビリテーションを行っており、手術ではなく保存療法で進めていく患者様が多いです。また、リハビリテーションのオーダーが処方される人数も多く、様々な患者様を担当することもあり、大変勉強になる環境で働かせていただいております。

入職してから6か月程度経ち、仕事に慣れてきたこともあり、徐々に理学療法士としてできることが少しずつですが増えてきていると思うようになりました。この6か月の間で、特に大切だと改めて思うようになったことあります。それは、しっかりと事前準備を行うことです。

前述の通り、当院は外来でリハビリを行っています。そのため、毎日同じ患者様を診るということはなく、患者様は自分の時間を割いて当院に来ていただいております。そのことを考えると、中途半端な評価や治療を行うことのないよう、しっかりと考えリハビリを進めていくことが必要だと今まで以上に感じるようになりました。患者様の目標に向かいリハビリを進めていくうえで、このことは当たり前のことでありますが、1年目の私にとって1番大切なことではないかと思っております。

今後の抱負は、担当する患者様をしっかり診ることはもちろんのこと、勉強会などに積極的に参加し、自分の知識・技術を磨いていきたいです。また、臨床研究も行っていき、患者様に還元していけるような理学療法士になっていきたいです。

道北支部の先生方には、これから勉強会等でお世話になるかと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

道北支部掲示板

～学術部より重要なお知らせ～

事業に関しては完全事前申し込み制を導入いたしております。これは当日の突発的なキャンセル防止、運営スタッフの負担軽減を主目的に行っております。ついては、事業の申込締切日時点までのものを有効としています。従いまして、**事業に関しては事前申し込みがない方が、直接、会場に来場した場合は受講不可となります。**また、事前申し込みをしたが期日までに事前入金をしていない場合も同様の扱いとなります。

また、**領収書の発行にも事前の申込みが必要**となっております。事業当日は事前に申し込みがなければ領収書は発行できませんのでご注意ください。

協会主催の研修会等には必ずご持参下さい!!

第71回 北海道理学療法士学術大会

大会長 **千葉 恒**

（介護老人保健施設ふらの）

主催
公益社団法人日本理学療法士協会北海道ブロック
公益社団法人北海道理学療法士会

日時：令和2年7月18・19日
場所：旭川市民文化会館

基調講演 **加藤 浩 氏**
（九州看護福祉大学大学院 教授）

テーマ
「臨床理学療法士に求められる研究と科学」

特別講演 **阿部 浩明 氏**
（広南病院 リハビリテーション科 総括主任）

テーマ
「理学療法士としての志
～自分の考えをデータを示して発言できる臨床家を志して～」

<次号予定>
- ✓ AcademicPT
- ✓ 支部事業活動報告
- ✓ 道北支部掲示板
- ✓ 役員会議議事録

～編集後記～

短い夏も終わって朝晩が肌寒くなり、今年も残すことあと100日切りました。会員の皆様は年始めに立てた目標を順調に消化しているでしょうか？私も今年の目標は「仕事を溜め込まずにすぐに消化する」としており、今までなんとか達成できています。残り100日弱も目標を達成できるようにしたいと思っています。仕事に限らず、プライベートでもなにか目標を立てると生活にメリハリがつくので個人的には大切なことかなぁと思っています。 目標なんて立てていないという方は今からでも立ててみてはいかがでしょうか？

問い合わせ先 北都保健福祉専門学校 近藤伸英
E-mail:kondoun@hokuho.ac.jp